

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 10 号

《論文》

- 母語ではない言語の学習指導に求められる
教員の資質と教員養成上の課題
——外国にルーツのある児童等への日本語指導と
日本における初等英語教育に着目して——
Beh Siewkee… 1
小倉 雅明
中島 悠介
開沼 太郎
- 発生運動学からみた「体づくり運動」領域の意義
——技能学習の素地としての位置づけ——
三木 伸吾… 24

《事業報告》

- 教育インターンシップ I の取り組み
浦部 孝英… 33
- 教師のお仕事入門（小学校・中学校・高等学校体験）
中島 智子… 39

《活動報告》

- 平成 30 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告
教職教育センター… 44

2019 年 3 月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 10

《Articles》

- Language teaching for children with different linguistic backgrounds in Japan :
Qualities and abilities required and issues in current teacher training programs
- BEH Siewkee 1
OGURA Masaaki
NAKAJIMA Yusuke
KAINUMA Taro
- “Exercises for Releasing the Body and Mind (karada-tsukuri-undo)”
served as the foundation building of skills learning - viewing
from Phenomenological perspectives
- MIKI Shingo 24

《Reports》

- Report on Education Internship I at Middle and High Schools
- URABE Takahide 33
- Report on Teacher Training Pre-practicum Courses at Primary,
Secondary and High schools
- NAKAJIMA Tomoko 39
- Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Annual Report – 2018
- Teaching Training Support Center 44
-

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【事業報告】

教育インターンシップ I の取り組み

浦部 孝英*

1. はじめに

2018年9月3日（月）、経団連の中西宏明会長は、現在、会員企業に順守を求めている採用活動の解禁日について、2021年春入社 of 学生から廃止する方向であることを明らかにした。その後10月に入り正式決定したため新たなルールづくりは政府主導に転換し、大学側や経済界も参加する関係省庁連絡会議での協議に委ねられることになった。

このことで、多くの学生が就職活動の開始時期を前倒しすることが予想されている。1、2年生でのインターンシップが当たり前となれば、大学4年間の研究や学びのあり方等への影響は避けられないだろう。そもそも教員採用選考テストは、2年間或いは4年間かけて取得する教員免許状の所有（見込み）が出願時の前提条件ではあるが、テストの実施時期や採用方法等について何らかの対応をしなければ、教職に適した優秀な人材の確保は一段と難しくなりそうだ。

学校園教育にけるインターンシップは、企業のそれとは違って、「採用を念頭に置いた仕掛け」にはなっていない。「長期熟成」が必要な教育界独特の人材養成法として、学校園現場の教育的愛情や厚意に大きく依存しつつも、教職を志す学生との win-win の関係性を生み出せる魅力ある仕掛けである。この純粋な仕掛けの趣旨が今後どのように変化していくのか興味深いところであるが、例えば大阪市教育委員会は、平成32年度大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テストにおいて、ボランティア加点を試行実施することを発表している。今後の各自治体の優秀な人材確保法に注目していきたい。

さて、今年度も、本学の学生たちはそれぞれの思いを胸に学校園現場に足を踏み入れさせていただき、インターンシップ生として真剣に活動させていただいた。本稿では、大阪大谷大学教職教育センター（以下「センター」という）の継続事業の一つである「教育インターンシッ

*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授

教育インターンシップⅠの取り組み

「Ⅰ」の本年度の取り組みの一端を報告することにする。

2. 事業概要

(1) 事業名 教育インターンシップⅠ

科目名称	期	対象学年	事前指導	活動期間	事後指導	活動先
教育インターンシップⅠ	通年	2年生以上	3回	短期連続型 3～5日間	1回	大学より教育委員会・学校園に依頼

(平成30年度教職教育センターハンドブック6ページより抜粋)

(2) 対象者

- 職業選択の一つとして、教職を視野に入れている2年生以上の学生。
- 社会人としての自覚をもち、幼児・児童・生徒が学ぶ教育現場にふさわしい態度や行動等を遵守できる学生。

(3) 事業目的

キャリア教育の一環として、幼稚園、小学校、中学校、高等学校でのボランティア実習（幼稚園・小・中学校は連続5日間、高等学校は連続3日間）を体験することで、教員に求められる資質・能力について自覚するとともに、教員としての適性を見極め、教職への意欲を高める。

教育インターンシップⅠを履修希望する学生の多くは、「教育実習前に学校園現場を知りたい」とか「自分の適性を見極めたい」という思いを強く抱いている。教育実習を体験していない2年生の時点では、生徒指導や授業のマネジメントに関心が行くのは致し方ない。マネジメントの根源である「子ども理解を深めること」への開眼は、3、4年生対象事業の「教育インターンシップⅡ」や「学校支援ボランティア」等で引き継がれていくことになる。

※なお、センターでは、教育実習に行く前に、教育インターンシップに参加することを推奨している。

(4) 実施日時・参加人数

前期		後期	
2018年9月13日(木)～20日(木)		2019年1月30日(水)～2月7日(木)	
幼稚園	42人	幼稚園	47人
小学校	35人	小学校	26人
中学校	8人	中学校	5人
高等学校	16人	高等学校	16人
合計	101人	合計	94人

(5) 大学が期待する事業成果の例

項目	学生が獲得することが期待される成果
教師像	学生が、初めて「教師の立場と視点」で学校園に入り込むことで、自身の「教師像」について鮮明にすることができる。
資質能力	学生が、「教師に求められる資質能力」について、肌で実感することができる。
適性	学生が、自身の「教職への適性」を探ることができる。
不安解消	学生が、「教育実習前に学校園現場を体験」できることで、教育実習の不安を軽減できる。
キャリアデザイン	学生が、「キャリアデザイン」の形成を促進することができる。
社会貢献	学生が、大学生としてボランティアに参加することで、「社会貢献」することができる。
キャリアモデル	学生が、「キャリアモデル」となる人物に出会う可能性がある。

大学は、学生が上記のような成果を多少でも収めることをきっかけにして、自身の職業人生を主体的にかつ明確にデザインし始めることを期待している。もし、「教職」に志が定まったのであれば、「教採合格」を勝ち取るためにセンターを最大限に活用してもらいたい。

(6) 活動を終えた学生の振り返り

質問1 インターンシップは、あなたにとってどのような意義がありましたか。

- 教師の立場で学校現場を見ることができた。教師の多忙さや授業を楽しく分かりやすく展開させる方法などを学べた。自分に足りない、未熟な部分がたくさん分かったのでとてもよかった。
- 自分の目指すべき教師像が少し見えてきた。「絶対に教師に成ってやる！」という思いに考えが大きく変わった。今後の目標が具体的にになり、教職活動のモチベーションアップにつながった。

質問 2 教職を志望する「思い」にどのような変化がありましたか。

- もっと教員になりたいという気持ちが強くなった。もっと生徒たちのことを知りたいという思いも強くなった。大変な仕事だと分かった上で教職に就きたいと感じている。
- 少し不安が増え、まだ、迷っている。自分にあんな授業ができるのか、生徒たちとの関係を築けるのか、子どもとの距離の詰め方がとても難しいと感じた。でも諦めたくないのので、今後の課題とする。

質問 3 子どもたちとのかかわりから学んだことは。

- 3 日目くらいにわかったことだが、生徒たちは、本当は私たちに興味を示してくれていた。登校指導から部活動まで、私たちの動きをよく観察していた。こちらから思い切って話しかけてみて初めて生徒の本音が聞けて嬉しかった。信頼関係を築くための「近すぎず遠すぎず」が難しい。
- ぐいぐい来てくれる子どももいれば、なかなか心を開いてくれない子どももいた。こちらが調子に乗りすぎるとなめられてしまった。また、支援が必要な子どもへの授業のあり方を何度も見せてもらい、教員に求められるものが多くなっているのではないかと感じた。

質問 4 授業など先生方から学んだことは。

- 授業にはたくさんのパターンがあり、一つの教え方にこだわる必要はないということを知った。また、学校の PR 活動にも凄く力を入れていることも分かった。
- 生徒としての 50 分間と教師としての 50 分間の長さの違いに驚いた。私が昔、何気なく受けていた授業に、教師の工夫がたくさんちりばめられていることを知った。それぞれの生徒の背負っているものを考えていた。思っていたよりもずっと奥が深く、大変な職業だと思った。

質問 5 学校の取り組みや運営体制などから学んだことは。

- 学校に活気があふれていた。校長先生や教頭先生が他の先生方とのコミュニケーションをすごくとっていたのが印象的だった。先生たちがとても活動しやすい環境だったと思う。
- 時間を守ること、人権を尊重するということを学校として大切にしていた。支援学級数が一般学級数の割に多く、充実していた。登下校の際、通行人にも挨拶をして、地域とともに歩む学校づくりを実践していた。PTA をはじめ外部からのサポートも手厚い学校だった。

(7) 活動日誌の振り返り記録から（抜粋）

私は、教職という仕事が自分に合っているのか、実際の仕事を見て勉強してみようとインターンシップIに臨んだ。5日間、多くの授業を見せていただいた。教材研究を通して先生方は常に子どもたちのことを念頭に置いていることが分かった。同じ先生でも、クラスや学年が違えば授業の進行や雰囲気を変えていた。若手の先生は授業に集中させる力量に課題を感じていた。教えることの難しさを肌で感じることができた。

放課後は、部活動に参加した。先生方は効率の良い楽しい練習を考えていた。生徒のことをよく知っているからこそその練習メニューだった。信頼関係というのはこんなところからも生まれると知った。

生徒の下校後は、保護者との電話対応や授業以外の資料作りをされていた。翌朝の職員朝礼では、学年行事や各授業の取り組み予定などについて、締まった雰囲気でもう・レン・ソウがされており、チームワークを感じるかっこいい姿の一つであった。

今回、初めて学校現場を拝見し、勉強になったことが多くあった。多用中にも係わらず、活動をさせていただいたことをすごく感謝している。将来に向けて頑張ろうと思える濃い5日間だった。

3. 課題

インターンシップ中、実習先の先生方からたくさんの有り難いご指摘をいただいた。そのうちの5項目を記載する。今後、早急に検討し、今の時代にさらに適した事業運営ができるようにしたい。

- ① 学生の名札は、事前訪問時からあったほうが分かりやすい。バラバラの名札ではなく、大学で統一するほうがいいのではないか。
- ② 「学生個票兼出勤簿」や「自己紹介カード」には個人情報が含まれており、保管責任が生じる。出勤簿管理は本来、大学側の業務ではないか。また、「自己紹介カード」は、「学生個票」と一部重複しているので不要。自己紹介は自分の口で直接言ってもらえればよい。
- ③ 活動日誌の指導教員検印欄は、指導教官そのものが不存在なので押印できない。
- ④ ネクタイのだらしない結び方や学力不足と思える誤字脱字が気になった。悪気はないが、初日、無断退勤する学生がいた。
- ⑤ 期間が短すぎるので、お互いにうま味を味わいにくい。他大学のように、授業の一環として、週一で年間を通して来てもらえれば、学生も実践力が身につくのではないか。

4. 終わりに

センターは、学生に教員採用選考テストの実態を伝え、合格を勝ち取るための「4年間の里程標」を示している。しかし、そこに示される道のりは長期戦であり、学生にとって決してバラ色ではない。民間の就職活動は近々前倒しとなり、教職に比べてさらに短期戦になることも見えてきた。

このような時代だからこそ、教育インターンシップⅠのような事業等を通して、自らの心に火をつけた学生が、この後、焦らずに、ぶれずに教職の学びを深めてほしい。大学内外でのあらゆる機会を通して、広い社会の厳しい現実を味わい、子どもを取り巻く社会的な課題の背景に触れてほしい。今後もセンターはそれを可能にするような学びの仕掛けを提供できる場であり続けたいと考えている。

【事業報告】

教師のお仕事入門 (小学校・中学校・高等学校体験)

中島 智子*

I 経緯

「教師のお仕事入門」は、2009（平成21）年4月に本センターが開設したときから続けている教職教育センターの事業であり、ちょうど10年の節目を迎える。参加主体は一回生で、「教育実習」や「インターンシップ」以前に学校現場に触れる機会となっている。

初年度は、富田林市立錦織小学校、堺市立さつき野小学校、堺市立さつき野中学校、大阪府立河南高等学校に協力していただいてスタートした。2012（平成24）年度からは、大阪府立富田林高等学校、2015（平成27）年度からは、富田林市立彼方小学校にも協力していただくようになり、現在に至る。

参加している学生の内訳について、2014（平成26）年度あたりまでは文学部・教育学部・人間社会学部の一回生が数多く参加しているが、近年の傾向としては教育学部教育学科の一回生が多い。

参加人数の推移については、以下のとおりである。

【実施状況 2009～2011年度】

(年度)	回	錦織小学校			さつき野小・中学校		河南高等学校	
		1	2	3	1	2	1	2
2009	人数	42	52	19	7	7	7	9
2010		37	43	25	7	17	9	
2011		26	38	24	20	8	9	8

*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授

【実施状況 2012～2014 年度】

(年度)	回	錦織小学校			さつき野小・中学校		河南高等学校		富田林高等学校	
		1	2	3	1	2	1	2	1	2
2012	人数	43	20	18	14	7	8	7	5	3
2013		45	30	23	12	5	9	5	9	5
2014		23	20	15	6	6	15	7	11	10

【実施状況 2015～2017 年度】

(年度)	回	錦織小学校	彼方小学校	さつき野小・中学校	河南高等学校	富田林高等学校	
		1	1	1	1	1	2
2015	人数	11	16	1	2	2	1
2016		12	12	5	4	8	
2017		7	16	3	7	5	

II 2018（平成 30）年度の実施概要

1. 目的

- ・小学校・中学校・高等学校を訪問し、学校現場の様子を知る。
- ・児童・生徒との交流を深める。

2. 対象

- ・職業選択の一つとして、教職を視野に入れている学生。主に一回生。

3. 実施概要—実施日時及び参加学生人数

実施概要は下記のとおりである。なお、それぞれ事前に「説明会」を実施し、参加の際の服装や心構えなど指導した。

◎小学校

○富田林市立彼方小学校 平成 30 年 6 月 6 日（水） 18 人

○富田林市立錦郡小学校 平成 30 年 9 月 11 日（火） 2 人

◎小中一貫校

○堺市立さつき野学園 平成 30 年 9 月 19 日（水） 9 人

◎中高一貫校

○大阪府立富田林中学校・高等学校

平成30年9月11日（火） 9人

◎高等学校

○大阪府立河南高等学校 平成30年9月18日（火） 4人

次に、2018年度の実施事例として、富田林市立彼方小学校における取組みを記載する。

4. 2018年度の実施事例

－6月6日富田林市立彼方小学校における「お仕事入門」の取組み－

【事前指導】

申し込み期間を5月末日までとし、直前6月4日月曜日の昼休みに事前指導を行った。

下記は、事前指導の際に配付した資料からの抜粋である。

□目的

- ・小学校の現場を訪問し、学校の様子を知る。
- ・児童との交流を深める。

□日程 平成30年6月6日(水)

11:00 現地集合（富田林市立彼方小学校 正門前）
11:10 ～ 学校概要の説明
11:30 ～ 児童との遊び交流
11:40 ～ 授業参観
12:30 ～ 現地解散

□場所 富田林市立彼方小学校 正門前

- ・大学から徒歩20分・滝谷不動駅から徒歩10分程度。（裏面参照）

あらかじめ、学校までの道順を確認し、下見しておいてください。

□注意 子どもたちの学習の場に行くことを忘れずに！

★時間厳守のこと

★服装は、体操服（例：白っぽいポロシャツ＋ジャージなど）

※中に着用するTシャツ等は、無地で白っぽいもの

★装飾品（イヤリング・ピアス、リング、ペンダント等）は不可

★頭髪にも気をつける（染髪、顔が隠れるヘアースタイルは不可）

★靴は、活動しやすい運動靴・スニーカー等

★必ず、徒歩で行くこと

□持ち物 筆記用具

上履き（体育館シューズ等）

※スリッパは不可

【当日のようす】

2018年度は19人の学生が申し込み、当日の参加は18人だった。全員教育学部教育学科の一回生である。天候はよくなかったが、全参加者が速やかに集合した。そして午前11時過ぎには教頭先生から学校の概要を説明していただいた。

1年生から6年生まで各学年に3人ずつ予め割り振って参加した。それぞれの学生は、最初緊張していたが、素直に話しかけてくる児童に接するうち、次第にほぐれているようすであった。

短い時間であるにも関わらず、一人ひとりが多くのことを学んだようである。参加した学生の感想文からその内容を振り返る。なお、感想文は抜粋したものであり、誤字のみ訂正を加えた。()内は、感想を書いた学生が入らせていただいた学年を示す。

<p>教師の「仕事」への気づき</p>	<p>授業のあいだに教室をまわっているときに体調が悪いのではないと思われる児童に対して、おでこに手を当てていた行動を見て、ひとりひとりを見るといった意味が少しわかった気がしました。(1年)</p> <p>先生方が黒板に書く文字がきれいで見やすくかかっているんだなと思い、私も教師になったときにそのような字で書きたいなと感じました。(4年)</p> <p>授業にはたくさんの工夫がありました。社会の授業はどうしても退屈になってしまう印象だったのですが、芸能人に例えて話をしたり、絵を描いてふき出しを作ったり、ノート作業よりも話すことに重点がおかれていた授業は、とても楽しくいつの間にか終わってしまっていたという印象でした。(6年)</p>
<p>子どものようす</p>	<p>一年生だからといって皆が元気なわけではなく、色々な子がいるということに気づきました。また、授業中に泣き出してしまった子がいて、こういうことでも子どもの気持ちは動くんだなと驚きました。(1年)</p> <p>音楽の授業の途中だったが、入ると後ろの男の子が何度もふりかえり見てくれた。すごくかわいかった。10分休憩では子どもたちみんなが周りに集まってくれかくれんぼをして一緒に楽しんだ。すごく仲の良いクラスだと体で感じる事ができた。(2年)</p> <p>教室に入る前「休み時間何をしようか」「どうやって話したらいいの」とドキドキしていました。ですが、教室に入ると皆キラキラした目で迎えてくれました。とても嬉しかったです。(3年)</p>
<p>教師への動機づけ</p>	<p>一人ひとりが授業についてこられるように、各問題ごとに声かけや個別に対応されていたりなど、授業を工夫して行っている先生を見て、私はますます教師になりたいと思いました。(1年)</p> <p>クラス担任の先生はすごく明るくて児童に負けにくいぐらいの勢いがあり、見ていて驚きました。児童一人一人の個性を把握し、発言ひとつに対する返しや子どもたちのやる気が出るような授業をしていて、さすがプロだなと感じました。今回の体験で、更に子どもたちが好きになり、教師になりたいと強く思うようになりました。(2年)</p> <p>本当に子ども一人ひとりのことをしっかり見ていてクラスの雰囲気にあった授業をされていました。私もそういうような子ども一人ひとりに向き合える先生になりたいです。(5年)</p>
<p>教師のむずかしさ</p>	<p>僕が感じたことは、小学校の子どもたちに勉強を教えるのは思っていたより難しいと感じました。(4年)</p> <p>小学生とコミュニケーションをとるのはそこまで難しくないと考えていました。ですが、実際には、子どもの方からはほとんど近づいてこなくて焦りを感じてなんとかコミュニケーションをとろうとしましたが、中々難しかったです。(4年)</p>

Ⅲ おわりに

感想文を見るとわかるように、学生はすなおに驚き、感動している。この取組みで教育現場に触れる時間は短いものであるが、体験したことの意味は一人ひとりのなかで大きい。教師になる意思がなお強いものになったと感じている学生も多い。また、教師という仕事の難しさを改めて感じたという感想もみられる。

これから教職を目指すにあたって、学生はまだまだ勉強を積みねばならない。「かわいい」と思って接するだけではすまない教師の仕事の困難さも、徐々に知っていくことになるだろう。その道をしっかり歩いていくためにも、「お仕事入門」のように教師を志向した規模の小さな体験の場をその入り口とすることは意味があると考えられる。

一方、この10年間で教育を取り巻く状況が大きく変わっていることも事実である。今、教育現場では、「教師の仕事」そのものが見直されようとしているし、急激な時代の変化を踏まえた新たな学習指導要領も始動しはじめている。

また、実施当初から言われている課題もある。「1. 日程によっては訪問時間が短くじっくり見学や交流ができない。」「2. 学生への周知」である。

これらを踏まえ、実施内容の再整理、改善も必要と思料する。

【活動報告】

平成 30 年度

「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職教育センター

I. 平成 30 年度

1. 組織および配置

平成 30 年度の教員、職員の配置は次のとおりである。

教員：センター長（兼務） 1 名

センター教員（兼務） 3 名

教職教育センター担当特任教授 2 名

職員：教職支援課 課長 1 名、係長 1 名、課員 3 名

派遣職員 2 名（合計：専任 5 名、派遣 2 名）

センター長および、教職教育センター担当特任教授の業務内容も変更なく、センター運営に携わった。

教職教育センター室の開室時間

平成 21 年度 平日 9:00～17:30

土曜 9:00～12:30

平成 22～30 年度 平日 9:00～11:20, 12:20～17:30

土曜 9:00～12:30

II. 業務内容

1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続きや、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。

教職に就くためには、学力だけでなく学校現場で必要な実践力が不可欠である。

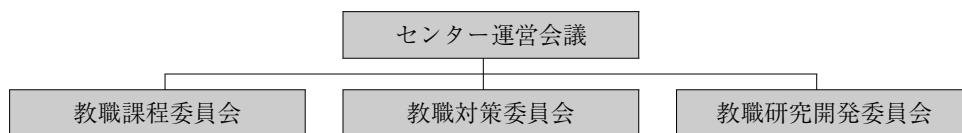
教職支援課では、教職を目指す学生に対して、入学後の早い段階に学校現場を訪問する行事として「教師のお仕事入門」を実施している。さらに、「学校支援学生ボランティア」や正課である「教育インターンシップ」等への参加を推奨し、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うためのサポート体制を整えている。現場を数多く体験することで、教師に求められる資質能力を深め、教師になる夢を達成するまで継続した支援を行っている。

その他、年間を通して各種行事を計画し、タイムリーな情報提供や各種対策講座を行い学生の知識と実践力の向上及びモチベーション維持を図っている。

平成 29 年度の免許法及び施行規則の改正に伴い平成 31 年 4 月 1 日より新教職課程が開始するため、今までに本学が認定を受けている教職課程について、平成 30 年度に文部科学省へ再課程認定申請の手続きをおこない、認定を受けた。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教職課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を 3 本柱にしてセンターを運営している。



教職課程委員会

第 1 回

日時：平成 30 年 4 月 11 日（水）9 時 30 分から

場所：第 1 会議室

議題：教職課程委員長選出について

平成 30 年度教職課程予算について

文部科学省へ再課程認定申請書の提出について

教育実習における確認事項について

学生情報の共有について

第 2 回

日時：平成 30 年 6 月 6 日（水）18 時 30 分から

場所：3-208 教室

議題：「教育公務員特例法の一部改正」にともなう平成 31 年度からの編入生への対応について

第 3 回

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）18 時 30 分から

場所：第1応接室

議題：再課程認定申請 現況報告と次年度シラバスに関する依頼
教員免許状更新講習担当について

第4回

日時：平成31年1月18日 16時20分から

場所：メール会議

議題：「大阪大谷大学教育職員養成課程に関する規程」改訂について

第5回

日時：平成31年2月6日 10時30分から

場所：第1会議室

議題：平成30年度「教育実習」「介護実習」の問題点・課題について
「再課程認定申請」報告

教職対策委員会

第1回

日時：平成30年4月11日（水）17時45分から

場所：第一会議室

議題：教職対策委員長選出について

教員採用試験「大学推薦」について確認事項

以降随時、案件の必要に応じて、委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを行った。

教職研究開発委員会

第1回

日時：平成30年4月11日（水）17時15分から

場所：メール会議

議題：委員長・副委員長の選出

第2回

日時：平成30年11月8日（水）11時40分～

場所：メール会議

議題：教職教育センター紀要に関する投稿について

以降随時、案件の必要に応じて、委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを行った。

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

平成 30 年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の3学部5学科および教育専攻科、大学院文学研究科国語学国文学専攻、歴史文化学専攻の2専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害・肢体不自由・病弱）、

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語・外国語（英語））

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施し出席する人数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成 25 年度から平成 30 年度の人数は表 1 のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表 1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数※	教育実習生数
25 年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458
26 年度 実習	幼稚園	119	111
	小学校	104	94
	中・高等学校	172	149
	特別支援学校	97	94
	計	492	448
27 年度 実習	幼稚園	115	107
	小学校	118	114
	中・高等学校	165	126
	特別支援学校	58	54
	計	456	398

平成 30 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

28 年度 実習	幼稚園	113	106
	小学校	108	106
	中・高等学校	165	123
	特別支援学校	50	45
	計	456	380
29 年度 実習	幼稚園	116	102
	小学校	118	111
	中・高等学校	171	127
	特別支援学校	46	46
	計	451	386
30 年度 実習	幼稚園	118	113
	小学校	110	105
	中・高等学校	158	122
	特別支援学校	62	61
		449	401

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

介護等の体験におけるトラブルは例年発生している。トラブルの問題点を検証し、オリエンテーションでの事前指導方法等については毎年改善を重ねてきた。

平成 30 年度も各施設での体験 1 か月前「直前オリエンテーション」に加え、支援学校の「直前オリエンテーション」を実施し、体験時における心構えや、体験先で関わる方々への注意点を再度確認し、実習に対しての各人の自覚を促した。

しかし、依然として施設や支援学校へご迷惑をかける事態は発生しているため、引き続き「介護等の体験」意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。

表 2 介護等の体験者数

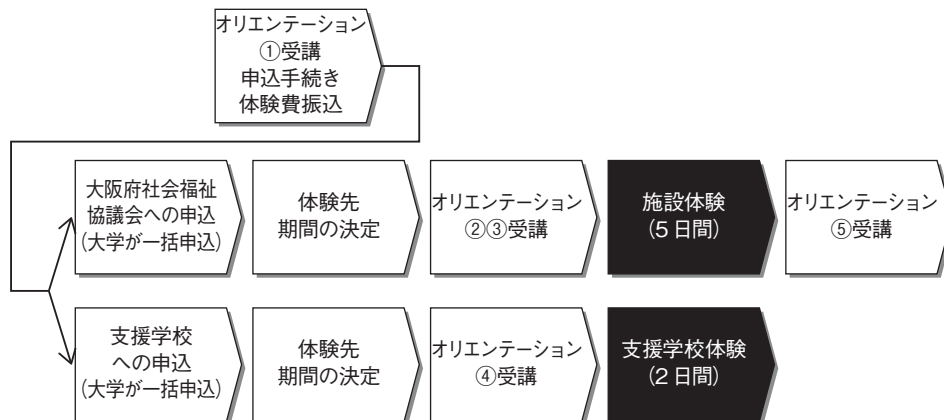
	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成 25 年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英米語学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199

平成30年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成26年度	日本語日本文学科	10	11	10	10
	英米語学科	1	0	1	0
	文化財学科	1	2	1	2
	教育福祉・教育学科	3	96	3	94
	人間社会学科	2	2	1	2
	スポーツ健康学科	0	64	0	57
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	17	177	16	167
平成27年度	日本語日本文学科	3	13	2	7
	文化財学科	1	5	1	4
	教育福祉・教育学科	8	73	8	65
	人間社会学科	14	2	9	1
	スポーツ健康学科	14	50	7	44
	科目等履修生	0	0	0	2
	計	40	143	27	123
平成28年度	日本語日本文学科	2	19	2	16
	文化財・歴史文化学科	3	15	3	14
	教育学科	5	105	4	100
	人間社会学科	0	10	0	6
	スポーツ健康学科	2	49	2	45
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	12	199	11	182
平成29年度	日本語日本文学科	1	10	1	10
	文化財・歴史文化学科	12	6	10	4
	教育学科	13	103	13	102
	人間社会学科	0	6	0	6
	スポーツ健康学科	12	29	12	27
	科目等履修生	1	0	1	0
	計	39	154	37	149
平成30年度	日本語日本文学科	11	6	11	4
	文化財・歴史文化学科	7	15	6	14
	教育学科	5	129	5	124
	人間社会学科	0	7	0	7
	スポーツ健康学科	4	50	4	49
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	27	209	26	200

※…施設5日間、支援学校2日間両方の体験終了者数

平成 30 年度「介護等の体験オリエンテーションの流れ」



4. 免許状更新講習

平成 30 年度 4 講習を実施

表 3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間	定員	受講者数
平成 24 年度	特別支援教育講座	選択	8 月 3 日 (金)～7 日 (火)	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8 月 6 日 (月)	6	60	17
	学校教育講習	選択	8 月 7 日 (火)	6	60	21
		選択	8 月 8 日 (水)	6	60	8
	計					103
平成 25 年度	特別支援教育講	選択	8 月 2 日 (金)～6 日 (火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8 月 5 日 (月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8 月 6 日 (火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8 月 7 日 (水)	6	60	4
	計					65
平成 26 年度	特別支援教育講座	選択	8 月 1 日 (金)～5 日 (火)	18	50	50
	幼児教育講習	選択	8 月 4 日 (月)	6	60	33
	学校教育講習	選択	8 月 5 日 (火)	6	60	12
	中学・高等学校教育講習	選択	8 月 6 日 (水)	6	60	7
	計					102
平成 27 年度	特別支援教育講座	選択	7 月 31 日 (金)、8 月 1 日 (土)、8 月 3 日 (月)	18	50	53
	幼児教育講習	選択	8 月 4 日 (火)	6	60	20
	学校教育講習	選択	8 月 5 日 (水)	6	60	7
	中学・高等学校教育講習	選択	8 月 6 日 (木)	6	60	10
	計					90

平成 30 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成 28 年度	特別支援教育講座	選択	7月30日(土)、8月1日(月)、8月2日(火)	18	50	52
	幼児教育講習	選択	8月3日(水)	6	60	25
	学校教育講習	選択	8月4日(木)	6	60	6
	中学・高等学校教育講習	選択	8月5日(金)	6	60	10
	計					93
平成 29 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(月)	6	50	37
	幼児教育講習	選択	8月2日(水)	6	60	37
	学校教育講習	選択	8月3日(木)	6	60	14
	中学・高等学校教育講習	選択	8月4日(金)	6	60	7
	計					95
平成 30 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(火)	6	50	49
	幼児教育講習	選択	8月2日(木)	6	60	48
	学校教育講習	選択	8月3日(金)	6	60	35
	中学・高等学校教育講習	選択	8月1日(水)	6	60	16
	計					148

今年度の応募状況は定員計 230 名に対し受講者は 148 名であった。前年度までの受講者数が 100 名前後で推移していた状況と比較すると、約 1.5 倍となった。これは平成 29 年度より特別支援教育講座の開講期間が 3 日間から 1 日間に変更され、幼児教育、学校教育、中学・高等学校教育の各講座と合わせ 4 日間の連続講座となったことで選択技が広がったことが一因と考える。また、1 講座のみの受講者 42 名、2 講座は 26 名、3 講座は 19 名、実受講人数は 87 名であった。実受講者の内、約半数が複数講座を受講したことになる。

5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第 10 号を発行する。

Ⅲ. センター独自のプログラム

センターでは、教員免許を取得するだけにとどまらず、教員に求められる資質を身につけ、学校現場へ送り出すために一貫した学生就職支援を実施している。

具体的には、「実践力向上プログラム」として、1. 教師のお仕事入門 2. 学校支援学生ボランティア 3. 教育インターンシップ 4. 現場実践経験基礎講座があり、人間力を磨く機会となっている。また、「筆答対策プログラム」として、5. キャリア教育科目 6. 基礎学力向上講座(通称：タニ☆スタ 6) 7. 教員採用試験対策講座(長期休業期間中実施) 8. タニスパ・タニスポ 9.DVD 講座があり、教員に必要な知識と専門性を高めるための支援を行っている。

その他、各種行事や実技対策講座等を通じ、最新の教育情報を提供している。

1. 教師のお仕事入門

「教師のお仕事入門」は、主に 1 回生を対象としたプログラムである。

学校現場を訪問し、教員の仕事内容や児童・生徒の様子を知るとともに交流を深めることを目的とし、近隣の小学校、中学校、高等学校のご協力を得て、年に複数回実施している。

今年度の実施日及び訪問校は以下のとおりである。

- H 30. 6. 6 (水) 彼方小学校
- H 30. 9. 11 (火) 錦織小学校
- H 30. 9. 19 (水) さつき野小学校、さつき野中学校
- H 30. 9. 11 (火) 富田林中学校・高等学校
- H 30. 9. 18 (火) 河南高等学校

(事業報告(中島智子特任教授)が「教師のお仕事入門」を掲載)

2. 学校支援学生ボランティア

学校現場で先生の補助や児童・生徒の授業支援を行うもので、1 回生から参加することが可能である。ボランティア活動に際しては、事前・事後の研修を課し、学生たちへ先生としての心構えを指導するとともにモチベーションの維持を図っている。

平成 30 年度は 100 名を越えるボランティア登録があり、例年以上に学校現場や子供たちへの状況に対する関心が高まったと捉えている。

3. 教育インターンシップ

教育実習に行く前に学校現場を体感することで、スムーズに教育実習へと臨むことが出来るように設定された正科目で、2 回生以上の学生が履修できる。教育現場を知ることで、自分の課題を見つけ、課題を克服し、実践力向上へとつなげている。

平成 30 年度 教育インターンシップ I 参加者 195 名

教育インターンシップ II 履修者 21 名

(事業報告(浦部孝英特任教授)が「インターンシップ I の取り組み」を掲載)

4. 現場実践経験基礎講座(公開講座)

この講座では、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただいている。授業は公開とし、現場経験の少ない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重な機会となっている。今年度の「現場実践経験基礎講座」は、表 4 のとおり実施した。

表4 平成30年度「現場実践経験基礎講座」一覧

	月日	テーマ	講師	科目
1	5月11日(金)	大阪の子どもたちの生徒指導上の課題と取り組み	臥龍岡 俊哉	学校教育演習Ⅱ
2	5月25日(金)	大阪の子どもたちの学力の現状と課題、および学力向上の取り組み等	加納 啓司	学校教育演習Ⅱ

5. キャリア教育科目

教員として必要とされる教養や実践力を身につけるための正課授業として、平成30年度は表5の科目が設置された。

学習指導要領の改訂によるICTの活用や英語力の領域に関して教員としての資質や能力を高めるための講義や、一般教養や教職教養の領域ごとにより実践的な演習講義を設けて、小グループによる継続的な学習を行った。

表5 教職基礎演習開講科目

科目名称	期	対象学年	内容
教職基礎演習 (教職教養)	後	2年以上	教職教養に関する基礎的な内容を小グループに分かれ、学習(演習)します。教職教養対策の第一歩となります。
	前	3年以上	教職教養に関する基礎的な内容を小グループに分かれ、学習(演習)します。(前年度後期の内容を引き継ぐものです。)
	後	3年以上	教職教養に関する予備知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。(前期の内容を引き継ぐものです。)
	前	4年	教職教養に関する予備知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。(前年度後期の内容を引き継ぐもので、教員採用試験直前期の対策です。)
教職基礎演習 (一般教養等)	後	2年以上	一般教養(数学、理科、全般)に関する基礎的な内容について、学びたい教科を限定し、学習(演習)します。
	前	3年以上	一般教養に関する基礎的な内容について、学びたい教科を限定し、学習(演習)します。(前年度後期の内容を引き継ぐものです。)
	後	3年以上	一般教養に関する基礎知識を備えた者を対象とし、学びたい教科を限定し、演習形式で授業を行います。(前期の内容を引き継ぐものです。)
	前	4年	一般教養に関する基礎知識を備えた者を対象とし、学びたい教科を限定し、演習形式で授業を行います。(前年度後期の内容を引き継ぐもので、教員採用試験直前期の対策です。)

平成 30 年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職基礎演習 (英語)	後	2年以上	英語に関する基礎的な内容を小グループに分かれ、学習（演習）するとともに簡単な英語でのやり取りを学びます。
	前	3年以上	英語に関する基礎的な内容及び英語でのコミュニケーションを演習形式で学習します。（前年度後期の内容を引き継ぐものです。）
	後	3年以上	英語に関する基礎知識を育成することを目指し、教員採用試験で出題される問題を用い、演習形式で授業を行います。
	前	4年	英語に関する基礎知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。（前年度後期の内容を引き継ぐもので、教員採用試験直前期の対策です。）
教職基礎演習 (ICT 教育)	後	2年以上	ICT 教育に関する基礎的な内容について、学習（演習）します。
	前	3年以上	ICT 教育に関する基礎的な内容について、学習（演習）します。（前年度後期の内容を引き継ぐもので、学校現場での対応を想定した内容です。）
教職基礎演習 (面接)	後	2年以上	面接に関する基礎的な内容について、演習形式で授業を行います。
	前	3年以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。（前年度後期の内容を引き継ぐもので、学校現場での対応を想定した対策です。）
	後	3年以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。（前期の内容を引き継ぐもので学校現場での対応を想定した対策です。）
	前	4年	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。（前年度後期の内容を引き継ぐもので、教員採用試験直前期の対策です。）
教職基礎英語	後	2年以上	教員採用（一般教養）試験で問われる英語の基礎力の向上を目指します。平易な英文の文法事項を確認しながら、内容を正確に把握できる力を養います。
	前	3年以上	英語読解能力を高め、速読即解能力を深めることで、長文の問題に対応できる力を養います。
教職文章表現	前	3年以上	教育に関する小論文を作成し、文章表現力の向上を図ります。
教職基礎社会	後	3年以上	日本史を中心に様々な社会分野の基礎知識を学習し、正確に問題を読み解く力を養います。
教育インター ンシップⅠ	通	2年以上	学校現場の教育活動に接し、実際の課題をより理解することを通じて、教職への意欲を高めます。夏期・春期のいずれかの休業期間を利用し、3～5日間の活動を行います。
教育インター ンシップⅡ	通	3年以上	学校現場の教育活動に接し、実際の課題をより理解することを通じて、教職への意欲を高めます。年間 32 時間以上の活動が必要です。
学校教育演習 Ⅰ	後	3年以上	教員採用試験の面接で何が問われるのか・自分のどこが教員に向いているのか、自己分析を基に教員としての適性を見極め、面接官に分かりやすく自分を表現する力を身に付けます。
学校教育演習 Ⅱ	前	4年	合言葉は、「敵を知り、己を知れば、百戦殆うからず」。教員採用選考テストの面接の実態を学び、様々な面接練習を通して、学校現場で必要とされる教師としての対応力を身に付けます。

6. 『基礎学力向上講座』

教員に求められる知識の育成と向上を目指し、平成25年度より行っている「基礎学力向上講座」（学内通称名「タニ☆スタ6」）を引き続き実施した。

「大阪府、大阪市、堺市、豊能地区」の試験に出題されている「判断力・思考力を問う問題」の問題数が昨年度来増加していることや、高配点となっていることを考慮し、今年度も昨年同様に特化したクラス編成を講じた。

なお、6限目に補講が設定されることが増えたため、補講出席による講座欠席者対応として、一昨年度より該当する講座を録画して希望者には空き時間に視聴学習可能となる措置を講じているが、30年度にはPCをリプレイスし学生がより視聴しやすい環境を整えた。

平成30年度 タニ☆スタ6 受講者数

学科名	クラス	A	B	C	D	E	F	計
	学年							
日本語 日本文学科	4							0
	3			1				1
	2				4	2		6
	1			1	4			5
文化財学科 歴史文化学科	4							0
	3			2				2
	2			2	5	3		10
	1				6			6
教育学科	4	17	10				2	29
	3		4	2	1		2	9
	2	4		11	9	23	3	50
	1			5	34	12		51
人間社会学科	4							0
	3							0
	2			1		3		4
	1				4			4
スポーツ 健康学科	4		1				2	3
	3							0
	2			2				2
	1				3	2		5
合計		21	15	27	70	45	9	187

7. 教員採用試験対策講座（長期休業期間中実施）

夏期及び春期休業期間中を利用して実施する短期（7～8日間）集中の講座（「V. 行事報告」で詳細を掲載）

8. タニスパ・タニスポ

i-pad を利用し、教員採用試験の過去問題を解説したビデオを視聴学習できるシステム。

空き時間を利用しての学習が可能であるため、クラブ活動やボランティア活動との両立をする人にとって、有効な学習方法の一つとなっている。

9. DVD 講座

教員採用試験の頻出領域の解説が収録された DVD を視聴し、学習する方法。

タニスパ・タニスポと同様、時間を有効活用できる学習方法の一つである。

視聴しやすい環境を整える為、PC をリプレイスしたところ、学生の利用頻度も向上している。

IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度 1 年間分の行事を計画している。

今年度も実習直前オリエンテーションを前倒しにして、年度初めのオリエンテーション期間に全校種実施した。例年行っている夏期休業中の教育職員採用試験受験者に対する教職教育センター開室も引き続き実施した。

今年度の行事で、特記する行事を以下のとおりまとめた。

1. 一般教養対策講座

教員採用試験で頻出の問題を中心に抑えるべきポイントを学ぶ講座。一般教養を学び直すことで自分の弱点を見つけ、早い時期からの学習習慣が身につくよう実施している。特に本学学生の苦手な領域については、基礎を中心に学べるように考慮している。

8 月 20 日から 29 日までのうち 8 日間実施。

2. 教職教養対策講座

教職教養の初歩的な内容を押さえ、基礎的な問題に対応できる力を身につけることを目標に 9 月 3 日から 12 日までのうち 5 日間実施。

表 7 参加者人数

学科	学年	一般教養講座	教職教養講座	計
日本語日本文学科	4			
	3			
	2	8	5	13
	1			
歴史文化学科	4			
	3	2	1	3
	2	2	2	4
	1	1		1
教育学科	4			
	3	12	11	23
	2	6	6	12
	1	7	4	11
人間社会学科	4			
	3			
	2	1		1
	1	1	1	2
スポーツ健康学科	4			
	3			
	2			
	1			
計		40	30	70

春季休業期間中も一般教養対策講座及び教職教養対策講座を実施し、それぞれ 70 名、90 名を超える申し込みがあった。なお、今年度は新たな試みとして教職教養対策講座の受講生を対象に教職教養対策講座に引き続き、短期特別演習を実施する。問題演習に取り組み知識の定着とさらなる実力アップをはかることが目的である。

3. 実技対策講座

平成 30 年度も 6 月中旬から水泳練習を開始し、8 月は例年通り器械体操やボール運動の対策も合わせて行った。日程と参加者数は以下の通りである。

表 8 体育実技対策講座 参加者

	日程	時限	参加者数
1	6月16日(土)	2限目	6
2	6月23日(土)	2限	3
3	8月7日(火)	3・4限	11
3	8月8日(水)	3・4限	16
4	8月9日(木)	4・5限	7
5	8月10日(金)	2限	12

今年度も教員採用試験の動向を加味し充実を図った講座内容とした。

ここに挙げた以外の行事実施状況は、次頁表 10 のとおりである。

次年度、平成 31 年度（2019 年度）は新法による教職課程が開始されるが、教職教育センター事業活動においてセンター教職員一同、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたい。

平成30年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

表10 平成30年度 教職教育センター 年間行事一覧

	月	日(曜)	時間	行事名	内容	
新年度 オリ	3末 ～ 4初	オリ 期間中		新入生対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内&行事について	
				2～4回生教職課程履修者・履修予定者対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内・行事・教職課程履修上の注意	
教育実習	H30 年度実習	3	30日(金)	4限 14:50～16:20	直前オリエンテーション(小)	実習の必要書類配付と説明
		4	4日(水)	3限 13:05～14:35	直前オリエンテーション(幼)	実習の必要書類配付と説明
		4	9日(月)	2限 10:45～12:15	直前オリエンテーション(特支)	実習の必要書類配付と説明 直前の注意
		4	9日(月)	3限 13:05～14:35	直前オリエンテーション(中・高)	実習の必要書類配付と説明
	H31 年度実習(予定者)	3	30日(金)	3限 13:05～14:35	内諾オリエンテーション(特支)①	次年度実習のための希望調査
		4	4日(水)	5限 15:30～17:00	内諾オリエンテーション(中・高)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)
		6	13日(水)	5限 16:35～18:05	内諾オリエンテーション(小)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)
		7	11日(水)	5限 16:35～18:05	内諾オリエンテーション(幼)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)
		7	18日(水)	5限 16:35～18:05	内諾オリエンテーション(特支)②	実習校の発表とリーダーの選出
9	26日(水)	5限 16:35～18:05	内諾オリエンテーション(特支)③	「教育実習依頼書」についての説明		
介護等の 体験	H30 前期	4	14日(土)	1・2限 9:00～12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について
		5	2日(水)	5限 16:35～18:05	介護等の体験オリエンテーション③	福祉施設について 実習上の注意事項
	H30 前・ 後期	6	6日(水)	5限 16:35～18:05	介護等の体験オリエンテーション④	
		6	16日(土)	1限 9:00～10:30	介護等の体験オリエンテーション④ <予備日>	特別支援教育について
	H30 後期	4	10日(火)	3限 13:05～14:35	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」 申し込み手続きについて
		4	14日(土)	3限 13:05～14:35	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>	
	H31 前期	9	12日(水)	1・2限 9:00～12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について
		9	12日(水)	3限 13:05～14:35	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」 申し込み手続きについて
	9	29日(土)	1限 9:00～10:30	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>		
免許状 申請	11	7日(水)	5限 16:35～18:05	教員免許状一括申請説明会①	平成31年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教員職員免許状授与申請書の配付と説明	
	1	30日(水)	5限 16:35～18:05	教員免許状一括申請説明会②	平成31年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教員職員免許状授与申請手数料の納付と今後の手続きについて	
教職オリ エンテー ション	1 回生	6	5日(火)	昼休 12:20～13:00	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには？
		12	4日(火)	昼休 12:20～13:00	1回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	どんな勉強をするの？
	2 回生	5	29日(火)	昼休 12:20～13:00	2回生 教職オリエンテーション 教員に求められるもの	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 勉強の進め方、資質の向上について講義
		10	10日(水)	5限 16:35～18:05	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	<小・中・高・特支> 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義
	3 回生	5	16日(水)	5限 16:35～18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験に向けて	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演
		10	3日(水)	5限 16:35～18:05	3回生 教職オリエンテーション 筆答試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演
		11	28日(水)	5限 16:35～18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)
		1	9日(水)	5限 16:35～18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)
			未定	未定	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 教員・幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施
	幼稚園 オリエン テーシ ョン	1・ 2 回生	6	26日(火)	昼休 12:20～13:00	1・2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって
11			14日(水)	5限 16:35～18:05	2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	<幼稚園教員・保育士希望者対象> (就職課と合同実施) 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義
12		14日(金)	昼休 12:20～13:00	1回生 幼稚園・保育園オリエンテーション	勉強の進め方、資質の向上について講義	
3 回生		5	15日(火)	昼休 12:20～13:00	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないこともあります。
		25	25日(金)	昼休 12:20～13:00	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション<予備日> 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	
		10	31日(水)	5限 16:35～18:05	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士採用試験対策	秋から始める勉強について 教員・保育士採用試験体験談 4回生との交流 (就職課と合同実施)
全		10	24日(水)	5限 16:35～18:05	幼稚園・保育所・福祉施設ガイダンス	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(就職課と合同実施)

平成30年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

			行事名	内容			
お仕事入門	6	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問		
	9	未定	未定				
	2	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校・中学校、高等学校)			
4回生対象 教員採用試験対策講座	実技	6-	随時	随時	4回生 教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 図画工作・音楽実技・小論文・体育実技・他	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくはHPにてお知らせ	
		6	16日(土)	2限 10:45-12:15	4回生 教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(実技試験)の心構えと押さえておくポイントを交えた実技練習	
	筆記	面接	6	23日(土)	2限 10:45-12:15	4回生 教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(実技試験)の心構えと押さえておくポイントを交えた実技練習
			4	21日(土)	3限 13:05-14:35	4回生 教員採用試験 直前筆答対策講座	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 直前対策 外部講師による講演
		5	30日(水)	5限 16:35-18:05	4回生 幼稚園教員採用試験 筆答対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演	
		6	20日(水)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座	採用試験で押さえておくポイントについての講義	
		5	18日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座	エントリーシート、面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR	
			22日(火)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>		
		6	27日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実技	
		7	25日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実技 二次試験対策	
		6~8月	随時	随時	4回生 面接・グループワーク練習 (集団・個人・討論・場面指導・模擬授業等)	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくは、HPにてお知らせ	
		教採・ 教師塾	説明会	4	13日(金)	昼休 12:20-13:00	3・4回生 大阪市教師養成講座説明会
4	17日(火)			昼休 12:20-13:00	3回生 大阪教志セミナー 説明会	大阪府教育委員会担当講師による説明	
4	26日(木)			昼休 12:20-13:00	3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明	
対策講座	4		25日(水)	4・5限 14:50-18:05	3・4回生 教採・教師塾対策講座③	教員採用試験・教師塾入塾のための対策 エントリーシート作成、面接の心得等について説明と練習	
	2		20日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教採・教師塾対策講座①		
	2		27日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教採・教師塾対策講座②		
講師登録 説明会	9	25日(火)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明		
	10	26日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会 <予備日>			
教採 学内 セミナー	4	11日(水)	午後	4回生 教採学内セミナー <大阪府・大阪市・堺市・豊能地区>	教育委員会担当講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます		
	4	18日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教採学内セミナー <和歌山県・奈良県・関東地区>			
	12	5日(水)	4・5限 14:50-18:05	3回生 教採学内セミナー (近隣教育委員会)			
ボラン ティア	4	18日(水)	5限 16:35-18:05	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	平成30年度にボランティア活動を行う予定の学生対象 ボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方など		
	2	27日(水)	3限 13:05-14:35	学校支援学生ボランティア修了式	平成30年度にボランティア登録をし、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表		
教職 模 試	4	14日(土)	午前	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文		
	4	28日(土)	午前	教職模試②(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文		
	5	12日(土)	午前	教職模試③(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文		
	6	2日(土)	午前	教職模試④(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文		
	12	15日(土)	午前	教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文		
	1	12日(土)	午前	教職模試⑥(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養		
	2	2日(土)	午前	教職模試⑦(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養		
有 料 講 座	長期	4-1	クラスごとに 設定	6限 18:15-19:45	タニスタ6 基礎学力向上講座	時事通信出版局・東京アカデミー担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策	
		7	6日(金)	昼休 12:20-13:00	教員採用試験対策講座案内地 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法など	
	短期 集中	8-3	未定	未定	一般教養対策講座	時事通信出版局担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策	
		9	未定	未定	チャレンジテスト対策講座		
		2	未定	未定	教職教養対策講座		
保護者対象 説明会	6	9日(土)	10:00-13:00	保護者対象 就職説明会	保護者のみ		

*使用する教室は、掲示版でお知らせします。日程や時間等が変更になることもありますので、必ず掲示版で確認してください。

大阪大谷大学教職教育センター紀要編集規程

平成 21 年 12 月 2 日制定

(目 的)

第 1 条 この規程は、大阪大谷大学教職教育センター規程第 3 条第 1 項第 10 号に基づき、教職教育研究開発に関する事業として発行する大阪大谷大学教職教育センター紀要（以下「紀要」という。）の編集等に必要な事項について定め、もって円滑かつ適切な発行に資することを目的とする。

(発 行)

第 2 条 紀要の発行は、年 1 回を原則とする。

(組織・募集・編集等)

第 3 条 紀要を発行するために編集会議を置く。

- 2 編集会議の構成員は教職研究開発委員会の議を経て選出される。
- 3 原稿の募集、編集は、編集会議において行なう。

(掲載内容)

第 4 条 紀要への掲載内容は、原則として教職教育ならびに教職支援に関するもの、または編集会議において必要と認められたものとする。

(投稿者の資格)

第 5 条 投稿者は原則として本学の専任教員、大学院生ならびに事務職員、及び編集会議が認めた者とする。ただし、大学院生の場合は指導教員の推薦状を要する。

(原稿の種類)

第 6 条 原稿の種類は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) センターの運営ならびに事業推進に関する報告
- (2) 論文、研究ノート、資料紹介、研究動向、学术交流報告、書評、研究・資料機関紹介および文献紹介等

(原稿の区分)

第 7 条 原稿は、投稿原稿および編集会議から執筆を依頼する依頼原稿とする。

- 2 論文および研究ノートについては、投稿原稿を原則とする。ただし、編集会議で必要と認められた場合には、この限りではない。
- 3 依頼原稿は、審査は行わず編集会議の判断によって掲載する。
- 4 書評および文献紹介については、原則として、編集会議において対象とする書籍を決定

し、原稿を依頼する。

(投 稿)

第8条 投稿原稿は、原則として未発表のものに限り、他誌等への二重投稿は認めない。ただし、投稿を受付けた編集会議の企画等によって発行される報告書等への同時または並行の投稿については、二重投稿とはみなさない。

2 投稿に関して必要な事項は、別に定める。

(審 査)

第9条 投稿原稿は、複数の審査員の査読に基づいて、編集会議内で審査を実施する。

2 編集会議は、投稿原稿の審査に関する審査基準を定めることができる。

(審査員)

第10条 審査員は、各年度の編集会議において委嘱された者とする。

(評 価)

第11条 編集会議は、審査員に対して次に掲げる評価区分に基づき査読を依頼する。

- (1) A 評価 無条件に掲載できるもの
- (2) B 評価 審査員からの軽微な訂正・改善要請に応じた修正がなされた場合に掲載できるもの
- (3) C 評価 再審査とし、1か月程度の期間内に訂正・改善可能なもので、書き直し再投稿を期待するもの
- (4) D 評価 掲載不可とするもの

(審査の期間)

第12条 審査期間は、概ね1か月ないし2か月を標準とする。

(審査結果の通知)

第13条 審査結果の通知は、その方法および内容に関して編集会議で個々の投稿原稿に即して検討し、行なう。

2 審査結果の理由および訂正・改善すべき点については、編集会議の責任のもとに投稿者に通知する。この場合においては、審査員の匿名性の維持に配慮するものとする。

第14条 審査結果の通知に基づいて、指定期間内に修正された論文等の掲載の可否については、編集会議が判断するものとし、その結果を投稿者および審査員にそれぞれ通知する。

2 編集会議は、審査員の審査結果および編集会議の査読結果を踏まえて、最終的な審査結果を決定し、掲載の可否等を判断する。

(証明書の発行)

第15条 編集会議は、投稿原稿を紀要に掲載した場合（掲載を決定した場合を含む。）、投稿原稿の執筆者に対し、必要に応じて、査読付き原稿（掲載を決定した場合には、査読付き掲載

決定原稿)である旨の証明書を発行することができる。

(校 正)

第16条 採用原稿の執筆者校正は、2回までとする。

- 2 校正時の加筆・修正を含む改訂は最小限とし、大幅な変更は認めない。
- 3 編集会議の指示に従わずに、校正段階で論文内容の大幅な変更が行なわれた場合には、
紀要への掲載を取り消すことがある。

(原稿の電子化・公開)

第17条 掲載された論文等の電子化ならびにインターネット公開については、執筆者の許諾に基づいてセンターが行なうものとする。

- 2 インターネット公開にあたっては、データの複製(印刷・ダウンロード等をいう。)は
調査研究・教育または学習を目的としている場合に限定されることを明示する。

附 則

この規程は、平成21年12月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年7月7日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成27年3月1日から改正施行する。

大阪大谷大学教職教育センター紀要
第 10 号

2019 年 3 月 15 日発行

編集発行 大阪大谷大学教職教育センター
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1
電話 (0721) 24-9891